

2023年3月7日 VOL. 1

キオマ通信



イラスト担当:イスン

表紙イラスト担当:イスン

2023年3月7日 VOL.1

キオマ通信

わたしたちは
あなたの光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

日常の中で欣びを感じるのは・・・（イスン）

光を生きるあなたへ

担当：光ンソン

第1回 私たちはあなたの光を観ようとし、真実を体験し、現そうとします

ヲキンソンソン ありがとうございます。

今、この世界は大きく、そしてどんどん変化していています。

最近、1日が3日ぐらいに感じるとか、1週間前のことが1ヶ月以上前のことのよう感じる、などと思っている方も多いのではないのでしょうか。

実は、こうした変化の加速を体感されている方は、変化にまだ対応しきれていないけれど、それなりに対応しつつある、と言えます。

一方、まったく変化の加速を体感していない人は、今の自分の日常にどっぷりとハマり、そのままを生きていらっしゃるということになります。

おそらく今後、変化の加速はどんどん増していくと思いますが、私たちはそれに対応しつつ、新しい世界への移行を具現化しようとしています。

そのために大切なことは、**過去を手放すこと、そして未来を創造しようとする**こと、です。

人にはいろいろな過去があり、記憶があり、それに付随する感情がありますが、そうしたものにこだわって、それを生きてしまうと、変化の加速に対応することができず、今自分が生きている次元（世界）に埋れてしまいます。

私たちは、より高い次元、新しい世界への移行を具現化するために、常に過去を手放し、そして未来を創造することを意図して進んでいきます。

「**あなたの光を観ようとする**」とは、過去ではなく、前を観ようとしているということです。自分の記憶を生きるのではなく、未来を創造しようとしているのです。

そして「**真実を体験し、現そうとする**」は、いつだって自分から未来を創造しようとする。自分は創造の源である、を生きようとする、ということです。

今年、来年と、変化はどんどん加速していきます。
意図を持ち、しっかりとその変化に対応していきましょう。

そして、近い将来、私たちはみんなで絶対の光を生きる7次元への移行を具現化していきます。

ヲキンソンソン ありがとうございます

日常の中で喜びを感じるのは、（光ンソン）

第1回 KIRとは？

ヲキンキツマ ありがとうございます。

KIRとはコトハ・インテグラルリサーチの略称です。

コトハとは、、、

「光と波」

「光」とは普遍意識の目覚めによって現れる自然知性

「波」とは自然知性によって生じる、この自然や宇宙創造の響きを意味します

インテグラルとは、、、

(完全体をなすのに)不可欠な、必須の、完全な、整数の、積分の

リサーチとは、、、調べること、研究すること

「すべての人に純粋な知識と進化の道が開かれ、完全な目覚めが具現化された世界の実現」

「人々の内側を純粋さで満たし、喜びを生きる世界の実現」

これらを真の願望として掲げています。

スタッフは現在11名在籍しており、様々な活動をしています。主な活動内容は以下です。

農業 … コトハ農法士が、純粋な土地で、純粋な作物を作ります。

大三島 … 次元を上げて、光を広げる場所を開きます。

K-PVT … コトハを自ら響かせる実践的な技術で、KIRの基礎となるものです。

講座… 純粋な知識を、より多くの人に広げます。

キオマ食堂 … 純粋な食事を提供いたします。

チケカフェ … 純粋な食事を提供するキオマ食堂で、静寂と躍動の体験を感じていただけます。

各部門より、多様性あふれる活動の内容をご報告いたします。

ご一読いただけますと幸いです。

ヲキンキツマ ありがとうございます。

植物から自然知性を学ぶ

担当：ツケオ

第1回 そら豆とか

ヲキンツケオ ありがとうございます

冬から春に向かい、少しずつ暖かい日々を感じています。
今治畑の草花も暖かい季節を感じて、成長の変化をしています。

とくに変化を感じるのが、そら豆です。
昨年の10月に植えたそら豆は、冬の間は寒さの影響で霜がつき、葉が黒くなってしまいました。でも、暖かい季節になるにつれて、生き生きとした緑の華が出てきて、紫色の花も咲きました。

植物というのは、自身の内側に自己参照的なカレンダーがあると感じます。
冬の間は、寒さの影響でもう駄目かなと思ってしまう苗でも、春の暖かさから再創造して自身を現すことをしています。

植物は、過去にとらわれることなく、毎瞬間の創造をしているとも感じます。
そら豆もそうですが、トゥルシーやレモンバームなどのシソ科は、一番成長している茎を切り落とすことで、脇枝や脇芽が増えます。
ちゃんと大きく成長している茎を切り落とすことで、豊かになるというのは、興味深いものです。

ヒトでも今までのことが全て駄目になるようなスランプと感じる経験があるかもしれないですが、実はそれは粒子化と再創造であり、大きく成長する機会だと思います。
自然知性に沿って生きているのが、植物と感じます。

私たちは、進化成長に繋がる気づきを、この世界のあらゆる場所に見出すことが出来ます。
それは、気づきを得る為に自分自身で創造しているかもしれません。

ヲキンツケオ
ありがとうございます



日常の中で欣びを感じるのは、朝起きたときと、
みんなが沢庵作っているのを見たとき（ツケオ）

第1回 大三島へ移住しました

ヲキンワナム ありがとうございます。

2月の中旬に大三島に移住をしました。

大三島は愛媛県の最北端、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、温暖な気候に恵まれ、穏やかな風が流れている島です。

こちらに移住してきてまず感じたことは、静寂と明るさがあるということ。

そして夜はよく眠れます。

私自身は同じ瀬戸内海の広島県の島の出身で、海と島には幼少期から馴染みがありますが毎朝、ふと外に意識を向けると聞こえてくる野鳥やトンビの声を聞くと、島にいるのだと気づくのと同時に懐かしささえも感じています。

なぜ大三島に移住したかという点、大三島は恵みをもたらす島とされており、私たちが7次元以上への移行を具現化するための絶対の価値の農作物を創造する為。

その足がかりとして、クリニックの横にあるキオマ食堂で提供されている無農薬の純粋な野菜を作られている農家さんのところに毎週、一年を通してどのように作物を栽培しているかを学びに行っています。

一切の農薬や化学肥料を使わず、自然の中に本来備わっている循環を大切に、太陽、空気、水、昆虫、土壌、野菜それぞれをつなぐ、自然栽培や有機栽培を取り入れた有機農業を実践されています。

そして大三島に7次元の階層構造を構築する拠点を開設する予定です。

そこでは様々な人が集い、生活に根付いたワークショップの開催（料理教室、実習、アートなど）、講座開催、K-PVTの受講、カフェスペースを作り飲食提供、野菜の販売など、皆に開かれた場としていくこと、そして大三島で将来的にはリトリートをできる場を創造していくことを考えています。

これから大三島は開かれた場所となっていきます。

是非、皆様お越しください。

ヲキンワナム ありがとうございます。



第1回 講座について

ヲキンヤリノ　ありがとうございます。

<自己紹介>

ヤリノは2022年の2月に東京から愛媛県西条市に移住し、同年夏からKIRでお仕事をさせていただいています。

そして、この度キオマ通信で講座についての文章を書かせていただくことになりました。よろしくお願いします。

<オススメ講座>

ご存知のようにKIRには様々な講座がありますが、今だと「アセンション・アクセラレーター育成プログラム基礎編」の動画がオススメです。

ンソン先生は、2022年に地球の6次元・7次元のゲートが開いたことでグラハ（地球外生命体）との接触の可能性が高まっているとおっしゃっています。

そういった中で様々な記憶を思い出される方も増えていきます。

世の中には全体性のない「情報」は溢れていますが、それを追いかけても闇の円環構造の繰り返しになることがほとんどです。

そうではなく「知識」をきちんと学び、今のご自身の体験と結びつけていくことが今とても重要なタイミングです。

この号が発行される頃には、KIRのHPの動画販売ページがリニューアルされているはずなので、ぜひ見てみてくださいね。

あとはやっぱり「光の5次元を創造する」と「地球の真の願望を達成する」の連続講座でしょうか。

これから改めてコトハのことを学ばれる方にも、復習のためにもとても良いと思います。

「光の5次元を創造する」はヤリノが東京に住んでいた時、100回位見たと思います。

世の中が大きく変わっているまさにその時、ヤリノは東京にいて、本当に苦しく、どこにも行き場がなく、どうしたらいいかもわからない、という日々を送っていました。

その中で「光と闇」というものがあることを知り、自身の中にそれを超えた絶対の光がある、という言葉は何度も何度も聞き、資料に赤ペンでメモを書き込みました。

その数ヶ月後の2021年12月にK-PVTを受講し、冒頭の「2022年の2月に東京から…」となるわけです。

純粋な知識に触れ、意図を持ち、体験していくことで人生を創造できるのだな、と思います。

KIRの講座は純粋な知識をみなさまにお届けできる大切なものです。

講座を通してみなさんが知識に開かれていくことを支援させていただけることに感謝いたします。

ヲキンヤリノ　ありがとうございます。

植物から自然知性を学ぶ

担当：ワトホ

第1回 K-PVT の基本理論について

ヲキン・ワトホ
ありがとうございます。

すべての始まりとして普遍意識、自然知性の光があります。

K-PVT とは自然知性を光として体験し、それを響かせるための技術です。

K-PVT の目的は大きく分けて3つあります。

- その人のストレスを取り除いてゆく。
- その人の響きそのものをもっと美しくしてゆくこと。
- 進化すること（生命の本質）です。

すべての人のこころの内側深くには普遍意識があります。
一人一人のこころとからだは、普遍意識が個別として現れたものです。

本来誰でも本当は心の奥深くで響きを感じますが、ストレスで感じられないようになっています。

K-PVT は、そのような心や神経系に溜まっているストレスを取り除きながら、よりよく響きを感じるようになり、光を形にしていくための技術です。

ヲキン・ワトホ
ありがとうございます。

日常の中で欣びを感じるのは、（ワトホ）

植物から自然知性を学ぶ

担当：ナエン

第1回 こんにちはキオマ食堂です

キオマ食堂は、クリニックの隣りにある建物で、食堂という名前の通り食事を召し上がっていただける場所です。

キオマ通信の初回刊行にあたり、こうして原稿を書いています。キオマ通信とキオマ食堂には、見てお気づきのように「キオマ」という共通の三語があります。
これは『ミコトオン』と呼ばれる響きのオンです。

キオマとは、コトハインテグラルリサーチKIRのミコトオンです。
そこでピンときた方もいらっしゃるでしょうが、キオマ食堂はKIRが運営している食堂です。
KIRでは、分野を分かれていくつかの活動を行っていますが、キオマ食堂はKIRのミコトオンを冠したKIRの食の部門ともいえます。

このキオマ食堂の始まりは、有機野菜を食材として扱い、スタッフが食べるまかないを作る社員食堂でした。

その一か月後にはクリニックへ来院なさる患者さんも、ご希望の方は予約制で、スタッフと同じ食事を召し上がっていただけるようオープンになりました。

さらにそのまた半年後には、わたしたちがつくり、食べている食事を、一般の方々へも予約のお申込みをして召し上がっていただけるよう、整えてまいりました。

最初はスタッフの数食分のまかない作りから始まったことが、少しずつ拡大し、今まで随分とたくさんの方々に召し上がっていただき、これまでに約2800食をつくってきました。

振り返ると、1年にも満たないこの期間で、「思えば遠くへ来たもんだ」と、そんな感覚すら覚えますが、現在ではここキオマ食堂で、一か月のべ約380人分の食事をまかなっています。

食べる場所というだけでなく、集う場所、光をあらわし、ひろげる場所でもあるキオマ食堂から、日々、そして今後もキオマ通信の発行ごとに、発信してまいります。

お茶の時間には、ハーブティーと手作りお菓子でお迎えする素敵空間の創造チケカフェ。
お待ちしております。

では、今回はこれにて。ごきげんよう。To be continue～次回へ続く

ヲキンナエン
ありがとうございます

植物から自然知性を学ぶ

担当：チケエ

第1回 CHIKE CAFEのこと

キオマ食堂の営業後、CHIKE CAFÉという場を開きます。

いつも、どのような方にも光を觀ようとする。それをハーブティーのブレンドを通して現し、「自身の内側にある欣びを広げる」がテーマの、響きの菓子を召し上がっていただきます。

その現れは、最初はあくまでも「わたし」を通して感じる、その方のイメージの範囲なのかもしれませんが、「響き」というものが何なのかさっぱりわかりません、と長らく思ってきた自身にとっては、それもまたひとつの響きを感じている、と言えるのかもしれない。

美味しい菓子を作りたい、とか、ひとの喜ぶ顔が見たい、という気持ちを超えて、コトハの作法に沿って、達成をみて、欣びをあらわし広げるという意図を持ち、形にするというプロセスを、ただ無邪気に繰り返すこと。なんとなく生きて、なんとなく形にしてきた自身にとっては、本気の意図を持って具現化するという、いまの段階ではその練習を通して、意図が変われば受けとるものも変わるということを垣間見る機会であり、そのことは、いつかすべての過去を手放し、未来を創造することに繋がっていて、本当の意味で自身を自由にするのかもしれないなあと感じています。

CHIKE CAFÉ（チケカフェ）

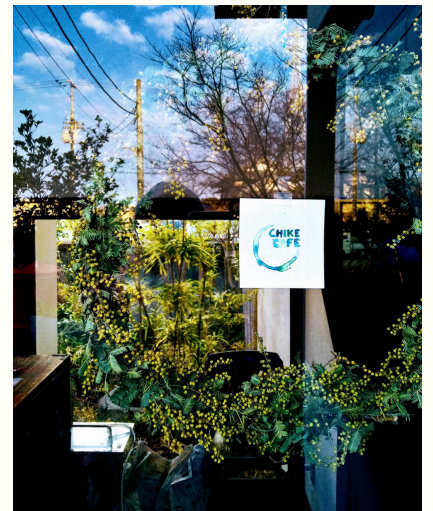
OPEN：毎週金曜日・土曜日

14:30～16:30（L.O 16:00）

いまのところ週に2日、しかも2時間しか開いてないんよ、とある方にお伝えしたところ、「幻やん、店に入れるだけで虹見た気分」とお返事をいただいて、なるほどそういうのも有りか、と思いました。水と月、海をテーマに、始めてみます。

チキンチケエ

ありがとうございます。



日常の中で欣びを感じるのは、（チケエ）

編集後記

担当:キリヲ

第1回 キオマ通信ができるまで

ヲキンキリヲ
ありがとうございます

キオマ通信、第1号